

第一回 学校評価〈生徒・保護者アンケート〉から

副校長 横山 勝行

7月に実施しました第一回「保護者アンケート」では、保護者の皆様にご協力をいただきありがとうございました。アンケートの回収率は、学校全体で95.2%でした。学校運営や教育課程等の内容については、80%または90%を超える、おおむね肯定的な評価をいただきました。第一回「生徒アンケート」と合わせて、今後の課題として明らかになったものなどを以下に記載いたします。

〈（ ）内の『生』は『生徒』を、『保』は『保護者』を、数字はアンケート番号を示します。〉

①(保・生14)「毎日家庭学習をしている」〈保65.4% 生78.8%〉

「保護者アンケート」と「生徒アンケート」の値に大きな差がみられますが、昨年度の値と比較すると、どちらも高くなっています。特に、「保護者アンケート」では7%以上高くなっています。家庭学習の取組が進んでいる結果だと考えます。

この結果を踏まえて、以下のような家庭学習の定着に向けた取組を学校でも行ってまいります。

○各授業において「主体的な学び」を推進し、学習への意欲を高め、家庭学習への意欲につなげる。

○家庭学習の方法を互いに紹介し合うような機会を作る。

○試験前には、よく計画が立てられている生徒の学習計画表を配布または掲示し、計画の立て方や学習方法を紹介する。

○火曜日に実施している『パワーアップタイム』の活用を推進する。

各教科においても引き続き、ただ単に宿題の量を増やすのではなく、「本来、家庭学習は予習・復習を含めた自学自習」という観点から、授業の中で家庭学習の努力や成果が発揮できる場を工夫するなど、「家庭での学習」の意識をさらに高めてまいります。ご家庭でのご協力もよろしくお願いいたします。

②(保12)「授業改善に努めている」〈保88.1%〉

(生10)「授業はよく分かる」〈生79.4%〉

(生11)「授業が楽しい」〈生69.4%〉

一中の教員は授業改善に努めていると、多くの保護者の皆様に認知していただいています。それに比例して、生徒も「授業はよく分かる」と実感しています。しかし、「授業はよく分かる」反面、「授業が楽しい」とは思っていない生徒も多く存在しています。今年度も、「全国学力・学習状況調査」や「児童・生徒の学力を高めるための調査」等のデータをもとに、各教科が授業改善推進プラン（10月初旬にホームページにて公開）を作成しました。生徒の学力向上を図るために、このプランをベースとした授業を展開してまいります。また、『立川一中 授業展開スタンダード』を各教員が実践し、今後も分かりやすい授業を追究してまいります。生徒の学力向上を図るためには、学習への「関心・意欲」を高めることが必須となります。本校は現在、ICT教育推進研究校として、授業等におけるICTの有効活用（「生徒の学習への「関心・意欲」を高める」を含め）の研究を進めています。今後、さらに、学習への「関心・意欲」を引き出す工夫を研究し、授業等における「主体的な学び」を構築してまいります。

③(保15)「小学校と連携して学校教育に取り組んでいる」〈保92.7%〉

(保16)「小・中の連携は各学校の教育の充実に大切である」〈保92.9%〉

(保23)「地域貢献活動・ボランティア活動に意欲的に取り組んでいる」〈保95.0%〉

一中校区における3年間の「小・中連携教育活動」の研究は昨年度で終了しましたが、「小・中連携教育活動」は、児童・生徒の学習面及び生活面において、また、教員の授業改善の視点から非常に有効であると考えています。研究の成果は校区内三校で共有し、今後も「小・中連携教育活動」は継続してまいります。また、近年、力を入れて取り組んできました「地域貢献活動・ボランティア活動」は、一中の新しい伝統となりつつあります。このような、地域の中で生徒が活動する取組は、『生徒の健全育成』の観点からも大事なことであり、今後も継続して取り組んでまいります。

今後も、学校評価（生徒・保護者アンケート）等を、よりよい学校づくりに活かしていきたいと考えております。皆様の一層のご理解とご協力を、よろしくお願いいたします。